



〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2
日港福会館 5 階
Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622
メール rouren@kensu.jp
ホームページ http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合
書記局



4月11日(金)第6回検数労連25春闘交渉10:00~10:30

前回交渉に続き、第6回交渉でも有額回答を求めるも両協会ともに回答未提示。
組合は『両協会は独自性をもって回答すべき』と不満を表明。

【第6回交渉】

4月11日(金) 第6回
検数労連25春闘交渉で組
合は両協会に対し、有額
回答の提示を求め交渉を
行いました。

《全日検》

前回の交渉で有額回答
の提示を求められ、中央
港湾団交等の進捗が見ら
れない中で、回答は困難
を極める中で労組より主
体性を求められたが、い
まだに団交が進展しない
中で米国の関税引き上げ
などが浮上し、慎重な対
応を迫られていることを
ご理解願いたい。

25春闘で新たに発出さ
れた国交省と日港協連名
の『価格転嫁のお願い文
書』については全事業所
に文書を活用しつつ料金
折衝に努めるよう指導し
ている。

《日検協会》

今春闘の賃金引上げに
ついて、前回の交渉でも
披歴しているが、24年
度の損益見込みと25年
度の損益計画については
内部審議を終えているも
の、今春闘の賃金引上
げについては米国の関税
引き上げの影響を無視す
ることはできず主要取扱
貨物である鉄鋼や完成自
働車への影響を注視して

いるところである。よっ
て、25春闘における賃金
引上げ回答については今
しばらく時間の猶予をい
ただきたいと思う。

《組合主張》

料金収受について、昨
年同様に国交省と日港協
連名で価格転嫁に対する
文書を発出したが、文書
の内容については昨年と
は違うものになっている
ため、両協会には引き続
き文書を活用しながら料
金折衝に臨んでいただ
きたい。

有額回答の提示につい
て、産別や関税引き上げ
の動向を注視している
とあるが現場で働く組合
員は有額回答に対し、期
待を込めて待ち望んでい
ることからも独自性をも
って有額回答を提示して
ほしい。そういった意味
では本日の交渉でも提示
されなかったことにつ
いては不満を表明する。



東京検数労連25春闘オルグ開催！



4月10日(木) 東京港湾
労働組合連合会会議室にて、
東京検数労連25春闘オルグ
を開催し、講師として高木副
委員長と光部書記長が参加
しました。

高木副委員長からは、
25
検数春闘について、1月23
日・24日に開催された中央
委員会を確認した25春闘方
針の内容から3月27日に開
催された第5回交渉(有額回
答指定日)までの交渉の経過
や、検数労連として大幅上
げ、底上げを目指すにはど
のような運動を進めて行く
べきかなどといった内容が話
されました。

光部書記長からは、昨年開
催されたITF世界大会に
参加して目の当たりにした
日本の労働者と海外の労働
者との違いや日本の港湾労
働者と米国の港湾労働者の
年収や労働条件の違い。25

春闘で組合要求を前進させ
るには、組織強化と拡大が不
可欠という事を前面に、組織
強化に向けた学習会の開催
や機関紙の発行の重要性、職
場で春闘情勢などを語り合
うことや各地域港湾が主催
する学習会への積極的な参
加などの必要性が話されま
した。

参加者からの質問では、ア
メリカの港湾労働者と日本
の港湾労働者での年収や労
働条件の違いに驚いたこと
と同時に、なぜ日本の港湾労
働者は海外の港湾労働者に
比べて年収や労働条件が悪
いのか、などといった質問が
出されました。

春闘オルグ終了後は参加
者全員で懇親会に参加し、
25春闘勝利を目指すべく検
数労連への結果と団結を深
め閉会しました。



次回交渉：日時未定

25春闘中央港湾団交の進捗状況を見ながらの事務局調整となります。